



東京ガス株式会社

グリーンボンド適格性 債券発行後

DNV 検証報告書



2021年11月

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

発行履歴

発行履歴	内容
2020年10月24日	グリーンボンド適格性 債券発行前 DNV GL 検証報告書
2021年11月09日	グリーンボンド適格性 債券発行後 DNV 検証報告書

## スコープと目的

この報告書のスコープは、東京ガス株式会社(以下、「発行体」)が2020年12月10日に発行済の気候ボンドイニシアチブ<sup>※1</sup> 認証を獲得したグリーンボンド「東京ガスグリーンボンド」(東京ガス株式会社第66回無担保社債)に対する債券発行後検証です。

この債券発行後検証は、気候ボンド基準3.0版<sup>※2</sup> で定められる認証プロセスに準拠しており、上記のグリーンボンドを対象としています。

※1：気候ボンドイニシアチブ (Climate Bonds Initiative、以下 CBI)

※2：気候ボンド基準3.0版 (Climate Bonds Standard Version 3.0、以下 CBS v3.0)

発行体は、グリーンボンドによる調達資金を以下のカテゴリーに分類されるプロジェクトおよび資産に充当しています。

- ・ **再生可能エネルギー(発電、送電、機器及び製品を含む)**

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、「DNV」もしくは「我々」)は、CBI から認定された検証機関として、CBS v3.0 の要求事項に対して債券発行後検証を実施するように、発行体から依頼を受けています。

DNV の基準及びこれを達成している事の必要な情報は、後述の「評価作業」の欄に記載されています。債券発行後検証は、2021年9月16日に実施した発行体へのインタビューと、発行体から提供された情報に基づき実行されました。

この資料では、債券の財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、もしくは長期的な環境効果に関する評価は提供されません。

我々DNVの目的は、債券がCBS v3.0の債券発行後要求事項と下記に示す、関連する技術基準に合致しているかについてアセスメントを提供する事です。従って「DNV 意見」の範囲は、CBS v3.0 で定められる範囲に限ります。

- ・ **太陽発電 気候ボンド基準&認証手順セクター基準(2.1版)  
Climate Bonds Standard & Certification Scheme Sector Criteria for Solar (version 2.1)**

またCBS v3.0は国内外で幅広く認知された関連基準である「グリーンボンド原則(ICMA 2018 以下「GBP」)、グリーンボンドガイドライン(環境省 2020 以下「GBGLs」)を包括的にカバーしているため、この検証報告書はこれらで定められる定期レビューの要素(必要なレビュー項目)を含んでいます。



## 発行体の責任と DNV の責任

発行体は、DNV がこの債券発行後検証結果を提供するまでの間、必要な情報やデータを提供しました。DNV の声明は独立した意見を表しており、我々に提供された情報に基づき、確立された適格クライテリアが満たされているかどうかについて、発行体の経営層及びグリーンボンドの利害関係者に情報提供することを意図としています。我々の検証結果及び意見表明は、発行体から提供された情報及び事実に依拠しています。

DNV は、この検証結果及び意見表明の中で言及されたプロジェクト及び資産のいかなる側面についても責任を負わず、また提供される試算、観察結果、意見、または結論が不正確な場合、責任を負うことができません。すなわち DNV は、発行体から提供される情報やデータ及びこの評価の基礎となる情報やデータが正確でない又は不完全な場合には責任を負うことはありません。

DNV は、発行体との間で合意された契約書に示された本業務の作業範囲を遂行するにあたって、利害関係が予見される直接的な株主としての関係を含めて、発行体との間にその他一切の業務上の関係を保持していません。



## DNV 意見の基礎

DNV は、発行体にとってより柔軟なグリーンボンド適格性評価手順(以下、「DNV の手順」)を作成するために、GBP、GBGLs 及び CBS の要求事項を考慮したグリーンボンド評価手順を適用しました。

この評価手順は GBP、GBGLs 及び CBS に基づくグリーンボンドに適用可能です。本報告書のスケジュール-2 に、DNV の評価手順及び評価結果の概要が記載されています。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切なクライテリアを含んでいます。そのクライテリアの背景にある包括的な原則は、グリーンボンドは「環境及び社会便益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」べきである、というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるフレームワークに対する原則は、以下の 4 つの要素にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、グリーンボンドの発行体が適格性を有するグリーンボンドに調達した資金を使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです
- **要素 2：プロジェクトの評価及び選定のプロセス**：プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーンボンドの発行体が、グリーンボンド調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、グリーンボンドが発行体組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポーティング**：レポーティングの基準は、債券への投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

## 評価作業

DNV の評価作業は、発行体によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他の試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

### i. 債券発行前検証(\* 2020 年 10 月実施済、この報告書には含まれません)

- 発行体固有の DNV の評価手順の作成
- 発行体より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクレビューによる補足評価
- 発行体の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- クライテリアの各要素に対する観察結果の文書作成

### ii. 債券発行後検証(\* 今回報告内容)

- グリーンボンド発行後に発行体により提供された根拠書類の評価、包括的なデスクレビューによる補足評価
- 発行体の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- 発行後時点での対象プロジェクト及び資産のレビュー(スケジュール-1 に記載された内容の更新)
- 発行後検証での観察結果の文書作成

我々の検証結果及び意見表明は、後述する「評価結果及び DNV の意見」に要約しています。



## 観察結果及び DNV の意見

DNV は ISAE3000(過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務)に従って本グリーンボンドの債券発行後検証を実施しました。

検証には、以下を含みます。

- i ) CBS の条項に矛盾なく、かつ適切に適用されているかのチェック
- ii ) 検証を裏付ける証拠の集約

DNV の検証アプローチは、CBSv3.0 への適合に関連するリスクの理解と、それらを緩和するために実施される管理手法の理解に基づいています。

DNV は、グリーンボンドが、CBSv3.0 の要求事項に合致していることへの限定的保証を提供するために、DNV が必要と判断した証拠、その他の情報及び説明を得るための検証を計画し実行しました。

また、この CBSv3.0 に対する検証は GBP 及び GBGLs への適合性についても関連性があるため、下記に示す形式に集約した形で実施しています。

DNV の評価結果と意見は以下の通りです。

## 要素 1 : 調達資金の使途

DNV は、発行体が今回のグリーンボンドで調達した資金が、債券発行前に検証済みである太陽光発電による再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業に充当されたことを確認しました。調達された資金は全て、新規投資及びリファイナンスに充当されたことを確認しました。

表-1 調達資金の充当状況(2021年9月末時点)

項目	金額(億円)
調達額(手取金)	100(99.61)
資金充当額	
安中市太陽光発電所	60
アクティナ(Aktina)発電所	39.61
未充当残高	0
調達資金は安中市太陽光発電所の建設資金のリファイナンス、アクティナ発電所の新規建設資金に充当	

本報告書のスケジュール-1「対象プロジェクト概要」に現時点のグリーンプロジェクト(太陽光発電プロジェクト)の状況をリストしています。

今回のグリーンボンドで調達された資金が充当された2つの太陽光発電プロジェクトは、いずれも以下のCBS技術基準(セクター適格クライテリア)に合致しています。

- 太陽発電 気候ボンド基準&認証手順セクター基準(2.1版)**  
 Climate Bonds Standard & Certification Scheme Sector Criteria for Solar (version 2.1)  
 基準 1 : 運用中もしくは運用に向け建設中のプロジェクト及び資産  
 基準 2 : 太陽光及び太陽熱以外の燃料使用による発電量(年間)が基準値以下であること



## 要素 2 : プロジェクトの評価及び選定のプロセス

プロジェクトの評価及び選定のプロセスは債券発行前に発行体により確立・実施され、DNV により検証されており、今回の検証活動を通じて新たなプロジェクトの追加や、発行前検証以降にプロジェクトの評価及び選定のプロセスに影響のあるような事象は認められませんでした。

具体的には、

- DNV は専門的知見のある再エネプロジェクト所管部署と経理部とが評価・選定プロセスに関与したことを確認した。
- 発行体の債券発行に関する気候関連の目的および債券発行の論拠について、変更は認められなかった。

## 要素 3 : 調達資金の管理

DNV は、発行体がグリーンボンド発行以降の調達資金の充当について、どのように追跡管理したかを、レビューしました。

具体的には以下の通りです。

- グリーンボンドによる調達資金の管理は、発行体の経理部において経理統合システム等を用いて実施された。調達資金の一部は速やかに適格プロジェクトに充当された。残る未充当資金の全額は、プロジェクトに充当されるまでの間、現金及び現金同等物として管理され、2021 年 4 月末時点で適格プロジェクトに充当されており、2021 年 10 月現在、未充当資金は発生していない。
- 資金充當時は、経理部がグリーンボンド発行管理に関する内部プロセスに基づき、適格プロジェクトに適合するかを確認し実際の支出が経理統合システムで追跡管理されたことを確認した。
- 各プロジェクトは、プロジェクト名称に基づき管理され、プロジェクト毎に資金充当状況が常時追跡管理可能だった。
- これらは上記内部プロセスで指定される資金管理整理表等の文書によって管理されたことを確認した。
- 資金管理に関連する文書(記録)は、発行体の文書管理に関する規定に従い、保存されていることを確認した。これらの文書は今後、償還期間中保存されることを確認した。

以上のように DNV は、発行体の資金総額の管理方法が適切かつ CBS 等に合致することを確認しました。



#### 要素 4 : レポーティング

DNV は、発行体がグリーンボンドのレポーティングとして要求される、調達資金の充当状況及び環境改善に関する情報をウェブサイト上で公表する予定であることを確認しました。この中には未充当金の残高、充当金額、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額(または割合)が含まれます。資金充当状況については、要素-1「表-1 調達資金の充当状況(2021 年 9 月末時点)」を参照下さい。

また発行体は、運転中のプロジェクトによる環境改善効果を、試算値に基づき下記の指標を開示する予定であることを確認しました。なお、建設中のプロジェクトは当初計画通り 2021 年度中に運転開始に向けて順調に進捗していることを確認しました。

- 再生可能エネルギー種別の設備容量(kW)
- 再生可能エネルギー種別の発電量(kWh)
- 再生可能エネルギー種別の年間 CO<sub>2</sub> 排出削減量(t-CO<sub>2</sub>)

表 2 充当対象プロジェクトによる環境改善効果(年間発電量実績に基づく年間 CO<sub>2</sub> 排出削減効果推定値)

種別	プロジェクト	設備容量* <sup>4</sup> (kW)	年間発電量* <sup>2*4</sup> (kWh)	二酸化炭素排出削減効果* <sup>3*4</sup> (t-CO <sub>2</sub> )
太陽光 発電	安中市太陽光発電所	42,840	52,538,976	34,676
	アクティナ(Aktina)発電所* <sup>1</sup>			

\*1 建設中のため、今回の環境改善効果には含まれず、稼働後の定期報告に組み込まれる。

\*2 年間発電量(kWh)=設備容量(kW)×年間総時間数(h)×平均稼働率(%)。  
(平均稼働率：国内資産:環境省公表の平均的稼働率/海外資産: EIA(米国エネルギー情報局)が公表する全米平均稼働率)

\*3 二酸化炭素排出削減効果 = 年間発電量(kwh)×CO<sub>2</sub> 排出係数(kgCO<sub>2</sub>/kW)。  
(排出係数：国内資産:国内火力平均係数(出展：地球温暖化対策計画 平成 28 年 5 月 13 日閣議決定 別表 1-72 再生可能エネルギーの最大限の導入)/海外資産:米国火力平均係数(出典：2019 年 9 月日本ガス協会・都市ガス業界の海外における温室効果ガス削減貢献量算定ガイドライン))

\*4 環境改善効果の算出には送電端の数値を用いた。



## **債券発行後検証結果及び定期レビューサマリー**

DNV が実施した限定的保証の手続きに基づいて、グリーンボンドが、CBS 及び関連するセクター適格クライテリアの要求事項に準拠していないと信じさせる事項は、全ての重要な点において認められませんでした。

なおこの報告書は、グリーンボンドの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期的な環境便益に関する保証を提供するものではありません。

また同様に、GBP2018 及び GBGLs で定められる定期レビューに対する要求事項に対しても、適切に実施されていることを確認しました。

以上から DNV は債券発行後検証及びレビューを通じて東京ガスグリーンボンドが、CBSv3.0、GBP2018 及び GBGLs2020 に従って実行されていることを確認しました。



DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2021 年 11 月 9 日

マーク ロビンソン  
サステナビリティサービス マネージャー  
DNV ビジネス・アシュアランス、オーストラリア

前田 直樹  
代表取締役社長  
DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

金留 正人  
プロジェクトリーダー  
DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

宮本 育昌  
アセッサー  
DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

#### About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

## スケジュール 1 グリーンプロジェクトリスト

表中に記載されている、既に稼働中または試運転中のグリーンプロジェクトは債券発行前検証時点(2020年10月現在)で適格性を検証済みです。

No.	大分類	中分類	適格基準	充当予定額	グリーンプロジェクト候補
1	再生可能エネルギー	太陽光発電	Climate Bonds Standard & Certification Scheme Sector Criteria for Solar (version 2.1) 太陽発電 気候ボンド基準&認証手順セクター基準(2.1版)  基準 1 : 運用中もしくは運用に向け建設中のプロジェクト及び資産 基準 2 : 太陽光及び太陽熱以外の燃料使用による発電量(年間)が基準値以下であること	100億円*	発電所名 : 安中市太陽光発電所 設備容量 : 63MW 所在地 : 群馬県安中市 運開時期 : 2020年1月  発電所名 : アクティナ(Aktina)発電所 設備容量 : 630MW 所在地 : 米国テキサス州ワートン郡 運開時期 : 2021年度中

\*経費を差し引いた手取り金(99.61億円)を適格プロジェクトに充当

## スケジュール 2 グリーンボンド適格性評価手順

下記 GBP-1 ~ GBP-4 は、CBS、GBP 及び GBGLs の要求事項を基に作成された DNV のグリーンボンド適格性評価手順です。評価作業における「文書確認」は、発行体内部文書等が含まれ、検証を通じて DNV に対して適格性判断の証拠として提供されました。

### GBP-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	グリーンボンドの種類は GBP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 ・(標準的)グリーンボンド ・グリーンレバニューボンド ・グリーンプロジェクトボンド ・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 ・(標準的)グリーンボンド
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンボンドにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、証券に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	調達資金の全額を「再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修、その他関連支出に関するプロジェクトの新規投資およびリファイナンスに充当する予定」であることが、証券に係る法的書類(発行登録追補書類)に適切に記載されていることを確認した。
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> <li>発行体のウェブサイト</li> </ul>	グリーンプロジェクトは、CO <sub>2</sub> 排出量削減として環境面での便益を有し、その環境改善効果が東京ガスグリーンボンドウェブサイトにおいて報告されていることを確認した。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> <li>発行体のウェブサイト</li> </ul>	発行体は、資金充当状況のレポートを通じて、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額が東京ガスグリーンボンドウェブサイトにおいて報告されていることを確認した。

## GBP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	グリーンボンドの発行体はグリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない) <ul style="list-style-type: none"> <li>発行体が、対象となるプロジェクトが適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス</li> <li>グリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成</li> <li>環境面での持続可能性に係る目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	発行体はグリーンボンド調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセスを有しており、その概要をフレームワークの中で明記していることを確認した。
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	グリーンボンドプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、グリーンボンド投資家は発行体のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	発行体の実施するグリーンプロジェクト選定は、環境関連法令、条例及び諸規則の遵守、ライフサイクル全体もしくは各プロセスにおいて、CO <sub>2</sub> 削減等の環境改善効果が明確になっていること等を考慮している。 事業の運営・実施にあたっては、関係する各部において周辺環境の保全に取り組んでいる。

## GBP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンボンドによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	グリーンボンドによって調達される資金に係る手取金は、発行体の経理統合システム等に沿って追跡され、検証を通じ実際に使用されているシステム及び文書等の確認を行い、これに基づき証明されたことを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンボンドの償還期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	グリーンボンドの債券発行から償還までの期間、発行体により定期的(四半期毎)にグリーンボンドの残高がレビューされ、2021年10月時点で残高が無いことを確認した。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	発行体の経理統合システム等を通じた確認プロセスにより、未充当金の残高が逐次認識される仕組みであることを確認した。また資金充当状況について、2021年9月末時点で未充当金の残高が無いことが東京ガスグリーンボンドウェブサイトにおいて報告されたことを確認した。

## GBP-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	調達資金の用途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はグリーンボンドで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。 -守秘義務や競争上の配慮 -各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者へのインタビュー</li> <li>文書確認(※添付の参考資料リストを参照)</li> </ul>	発行体は、グリーンボンドの年次報告を実施し、全資金の充当完了及び資金が充当されたプロジェクト及び環境改善効果に関する情報が開示されていることを確認した。



## スケジュール 3 気候ボンド基準 3.0 版(CBSv3.0) 主要な要求事項

### CBS3.0 版への適合条件サマリー

グリーンボンドへ適格プロジェクト及び資産を組込むに先立ち、関連するプロジェクト及び資産をレビューするための基準が、CBSv3.0 及びその関連技術基準に基づき分類されています。CBSv3.0 及び技術基準の主要な要求事項は大きく下表のパート A～パート C に分類されます。

DNV は発行体への検証により、DNV が実施した限定的保証の手続きに基づいて、グリーンボンドが、CBSv3.0 及び関連するセクター適格クライテリアの要求事項に準拠していないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められませんでした。

#### パート A: 債券発行前要求事項 \*この検証報告書では対象外

パート A	要求事項
1. 調達資金の用途	債券の手取り金は(全て)選定されたプロジェクト及び資産に充当されなければならない。
2. プロジェクト及び資産の評価及び選定プロセス	(発行体は)選定されたプロジェクト及び資産が継続して適格であることを定義・決定したプロセスを文書として維持しなければならない。
3. 調達資金の管理	(発行体は)債券の手取り金をサブアカウント(別口座)へ預金する、サブポートフォリオに移動する、もしくは他の識別可能な適切な方法で管理し、それらを文書化すべきである。
4. レポーティング(発行前)	発行体はフレームワークの開示、適用する基準、充当(新規投資及びリファイナンス)及び未充当資金の管理、プロジェクト情報が含まれる更新レポートの作成と開示計画等について明確にしなければならない。

**パート B: 債券発行後要求事項** \*この検証報告書(債券発行後検証)の対象範囲

パート B	要求事項
5.調達資金の使途	債券の手取り金は(全て)選定されたプロジェクト及び資産に充当されなければならない。充当されたプロジェクト及び資産は、他のグリーンボンドやローン等と混在してはいけない。また、対象プロジェクト及び資産の持つ価値が、少なくとも債券発行額(発行時点)、もしくは発行済みの金額と同等またはそれ以上とすべきである。
6.プロジェクト及び資産の評価及び選定プロセス	(発行体は)選定されたプロジェクト及び資産が継続して適格であることを定義・決定したプロセスを文書として維持しなければならない。
7.調達資金の管理	(発行体は)債券の手取り金をサブアカウント(別口座)へ預金する、サブポートフォリオに移動する、もしくは他の識別可能な適切な方法で管理し、それらを文書化すべきである。
8.レポート(発行後)	発行体は債券の残高が残存している期間、少なくとも1年に1回更新レポートを準備し、公開しなければならない。更新レポートには、資金充当状況、環境改善効果、対象プロジェクトに関する情報が含まなければならない。適合性に必要な情報を検証者及び気候ボンド基準事務局に提供しなければならない。

**パート C: プロジェクト及び資産の適格性**

パート C	要求事項
9.気候ボンド分類	選定されたプロジェクト及び資産は、気候ボンド分類でリスト化されている1つもしくはそれ以上の投資領域に該当しなければならない。
10.セクター適格性基準	<p>プロジェクト及び資産は関連する分野(セクター)適格性基準文書で提供される特定の適格性基準文書に合致していなければならない。</p> <p>下記に検証対象となる分野と基準の概要を示す。</p> <p>(4)太陽エネルギー(太陽光発電、太陽熱発電)</p> <p>基準1：運用中もしくは運用に向け建設中のプロジェクト及び資産</p> <p>基準2：太陽光及び太陽熱以外の燃料使用による発電量(年間)が基準値以下であること</p>